

公平

「世の中は公平ではない。それに慣れよ。」

これは、マイクロソフトの創業者ビル・ゲイツさんが高校生に向けたスピーチで話した一部である。僕はこの言葉に高校三年生の時に出会い、少し救われた経験がある。

高校三年生の夏、僕は学校の先生に夏休みの終わりの模試で目標点を超えないと、「あなたが行きたい大学を受けさせない」と言われた。だから、必死に勉強した。朝9時から夜10時まで、毎日塾で勉強した。休憩は昼ご飯・夜ごはんにおにぎりを2つずつ食べるための時間合わせて20分ほどである。周りの同じ塾に通っている友達は、お昼ご飯を外に食べに行ったり、遊んだりしていた。そんな生活を1か月続け、模試を受けた。

結果は、夏休み前よりも点数が下がっていた。友達は100点くらい上がっていて、大喜びしていた。その時に、僕は勉強において時間は『平等』に扱われ、日頃の行いは問われなかったと感じた。「こんなの不公平やん。するだけ損やん。」そんな気持ちが芽生えた。僕のほうが絶対に努力をしているのに！朝から晩まで勉強したのに！『公平』にしてよ！

家に帰り、勉強のやる気もわかず、スマホをいじっていると、ビル・ゲイツさんの言葉に出会った。「世の中は公平ではない。それに慣れよ」という言葉である。ビル・ゲイツさんはこの言葉の後にこのように話している。

「残念ながら世の中は不公平なことだらけだ。自分の力ではどうにもならないことがある。だからといって、自分には才能がない、環境に恵まれていない、などと嘆いていても仕方がない。現状を把握し、受け入れて、それを打ち砕くために努力し続けたものだけが何かを成し遂げることができるんだ。」

僕はこれを見たときに、自分が他人と比べ、「不公平」だと考えていたことに気が付いた。「不公平」を受け入れ、努力し続け、「公平」になるようにすることが大切だとその言葉を見て、感じた。その後、切り替えて勉強に励んだ。

皆さんもこれから他人と比べ、いやになることや「不公平だ」と感じる時があると思う。その時に、ビル・ゲイツの言葉を思い出してほしい。